

東京, 2019. 8. 1-2

遺伝子組換え型 hCG は尿由来 hCG に代わる有用な自己注射用デバイスとなりうるか？

～アンケート調査をふまえた有用性の検討～

前田 優磨、西原 卓志、井上 朋子、森本 義晴

医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

従来、尿由来ヒト絨毛性ゴナドトロピン(u-hCG)が採卵前 LH トリガーとして使用されてきたが、近年、遺伝子組換え型 hCG (r-hCG)が開発され、卵成熟率上昇など成績向上に寄与したとする報告がある。また、アンプル製剤である u-hCG と比較し、r-hCG はプレフィルドシリンジ製剤のため投与が簡便であり、不純物を含まないため安全性に対する懸念が少ないと考えられる。今回、r-hCG の投与が体外受精の成績に及ぼす有効性の検討に加えて、r-hCG の使用感についてアンケート調査を行った。

【対象と方法】

<検討 1>2016 年 10 月から 2018 年 3 月までに当院で調節卵巣刺激周期による体外受精を実施し、採卵 36 時間前に hCG を投与した 40 歳未満の患者を対象とした。u-hCG 5000IU 投与群(87 周期)と r-hCG 250 μ g 投与群(105 周期)で体外受精胚移植の成績を比較した。<検討 2>2015 年 1 月から 2018 年 3 月までに、当院で u-hCG および r-hCG をどちらも自己注射した経験のある患者を対象にアンケートを配布し、32 名からの回答を得た。

【結果】

<検討 1>u-hCG 投与群と r-hCG 投与群で採卵日の血中 hCG 値、卵成熟率、受精率、胚発育および妊娠率に有意な差はみられなかった。<検討 2>手技について u-hCG よりも r-hCG の方が「簡単になった」と 68.8%が回答し、注射に要する時間についても「短くなった」と 65.6%が回答した。注射時の痛みについて患者が自己評価した結果、痛みのスコアは r-hCG で有意に低値となった($p < 0.05$)。

【考察】

r-hCG 投与は u-hCG 投与と同等の治療成績が得られることが確認された。r-hCG は安全性が高く、注射時の患者負担を軽減させたことから、採卵前 LH トリガーの自己注射用デバイスとして高い有用性を示した。